

提出日： 2025 年 5 月 28 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済学部	教授	田村威文

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2024年4月 1日 ～ 2025年3月31日	1
	2. 2024年9月 1日 ～ 2025年8月31日	
	3. 2024年4月 1日 ～ 2024年9月20日	
	4. 2024年9月21日 ～ 2025年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	2017 年頃から、力学的な手法を用いて会計事象の状態およびその変化について考察するという研究テーマに取り組んできた。力学は、物体の動きをニュートンの運動 3 法則にもとづいて考察する、物理学の一分野である。この研究テーマに関する論文を主として学内紀要で発表してきたが、既発表論文がある程度の分量になったので、研究促進期間制度を使って、その内容を体系的にまとめた。具体的な作業としては、既発表論文について執筆内容を改善するとともに、不足していると思われる内容を追加執筆し、全体を再構成した。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	次の書籍を刊行する。 田村威文(2025)『ニュートン力学で考える企業会計』中央経済社 本書の構成は次のとおりである。 【第1部：力と運動】 第1章：力学と企業会計、第2章：利益マネジメント(その1)、第3章：利益マネジメント(その2)、第4章：会計制度と会計実務、第5章：会計基準の改定と会計数値の変化、第6章：会計と税務の関係 【第2部：剛体の力学と振動論】 第7章：会計基準の調和化、第8章：会計基準の時間に伴う変化、第9章：監査人と企業の関係 【第3部：座標系と座標変換】 第10章：会計の座標系と税務の座標系(その1)、第11章：会計の座標系と税務の座標系(その2)、第12章：静止座標系と移動座標系 【第4部：発展的内容】 第13章：会計基準の改定で変わるものと変わらないもの、第14章：税務会計研究と数学的概念、第15章：解析力学にもとづく税務会計の考察	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	企業会計の力学的考察という研究テーマに取り組む過程で、「力学をはじめとする物理学」と「数学の一分野である幾何学」の間には深い関係があることを知り、興味をもった。そして、研究促進期間の途中から幾何学の勉強をはじめた。今後、企業会計について幾何学の考え方をを用いて考察するという研究テーマに取り組む。	